高松市創造都市（クリエイティブ高松）推進ビジョン（総論）

骨　子　案

平成２５年３月

ビジョンの体系図

１．はじめに（目的、スケジュール、位置づけ）

２．創造都市の動向
- 創造都市の潮流
- 国の動向
- 県の動向
- 高松の動向

３．現況と課題の整理
- 考え方
- ７つの創造都市政策指標から見る高松市の課題

４．ビジョンと戦略

＜高松がめざす将来像＞

魅力にあふれ、活力のある創造都市

(1)自然や歴史、生活と結びついた「芸術指数」が高いまち
(2)交流で新たな発見がある「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち
(3)コンパクトな理想の暮らしが実現できるまち

＜ビジョンを達成するための３つの戦略＞

(1)グローバルにひらく戦略
(2)高松ならではのブランドを編集する戦略
(3)ゆるやかに連携し、段階的に取組む戦略

＜３つのローカル＞　マテリアル　テクニック　デザイン

総論で策定する内容

５．創造的アプローチ
- (1)場の創出
- (2)創造的人材の集積
- (3)編集・発信

６．主なプロジェクト
- (1)【交流空間】海園・田園とつながる人間都市プロジェクト
- (2)【食】フード・イノベーション・プロジェクト
- (3)【生活工芸】グローカルな生活工芸プロジェクト
- (4)【祝祭】ワールド・フェスティバル・プロジェクト
- (5)【国際会議】コンベンション誘致プロジェクト
- (6)【こども】高松チルドレンズ・プロジェクト

７．ビジョン推進に向けて

各論で策定する内容

１．はじめに

（１）目的

○固定観念にとらわれない創造的な方法（アプローチ）により、地域課題の解決と地域活性化を目指すことで、市民一人一人が創造的に働き暮らし、活動できる「創造都市」を実現します。

（２）ビジョンのスケジュール

○平成２６年度を初年度とし、高松市総合計画に基づいて見直します。

○平成２５年度は本ビジョンの各論を策定するとともに、主なプロジェクトについては試験的に取組を開始します。

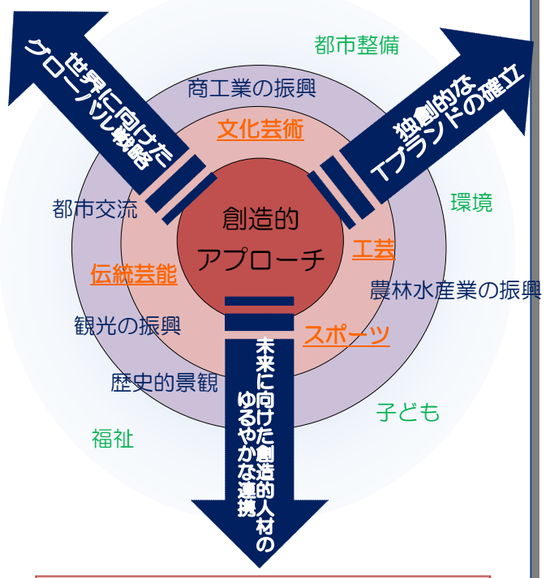
（３）ビジョンの位置づけ

○第５次高松市総合計画に基づき、分野別計画や施策を横断的に取組む創造的アプローチを実現するとともに、重要課題について官民協働による戦略的なプロジェクトを実践するための方向性及び施策・事業を取りまとめたものです。

○創造都市推進局を中核的組織として文化政策と産業政策の融合を図ります。

第５次高松市総合計画
「文化の風かおり　光かがやく　瀬戸の都・高松」

創造都市推進のイメージ



魅力にあふれ、活力のある創造都市

「創造性豊かな海園･田園･人間都市」の実現

２．創造都市の動向

（１）創造都市とはなにか

①創造都市の定義

・C.ランドリー「創造都市政策論」／R.フロリダ「創造階級論」
・市民一人一人が創造的に働き、暮らし、活動できる都市
・「創造経済」（個人の創造性、スキル、才能を源泉とし、知的財産権の活用を通じて、富と雇用を創造する可能性を持った産業）は、社会包摂、文化多様性、人間発達を促進しながら、所得と雇用を生み出す可能性がある

②創造都市ネットワーク

○創造的文化産業の振興に関する経験、ノウハウ、技能訓練と技術を共有することで、国際的に創造的経済を育成する
○３つの条件
・創造産業を担う文化的活動が集約されている
・創造活動を行う人同士を結びつける潜在的な可能性がある
・都市内部の文化産業と国際的な市場への出口をつなげている
○７つの分野（デザイン／文学／音楽／食文化／フォークアート／メディアアート／クラフト）

（２）国の動向

○文化芸術振興の側面からだけでなく、自立的な地域社会の形成や、産業振興の側面からも創造都市政策が立案・実施されている
・文化庁「文化芸術創造都市」「文化庁長官表彰」「東アジア文化都市」
・総務省「緑の分権改革」「定住自立圏構想」
・経済産業省「クール・ジャパン（クリエイティブ産業の育成、国内外への発信）」
○創造都市ネットワーク日本
・創造都市の取組を推進する（または推進しようとする）地方自治体等多様な主体を支援するとともに、国内および世界の創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、わが国における創造都市の普及・発展を図ることを目的として設立（2013 年 1 月 13 日）

（３）地域の歴史・動向

①高松城を中心とした城下町と文化土壌の形成

・1587 年に生駒親正によって高松城は築かれ、その後、高松松平家によって城下町の整備が行われた
・高松城（玉藻公園）、栗林公園、法然寺五重塔の歴史遺産
・文化芸術の振興（茶道、華道、俳諧、漆芸、保多織、桐下駄、円座、提灯、盆栽、張子、獅子頭）

②明治から昭和初期の動向

・讃岐漆器の伝承を目的として、明治 31 年に全国で 3 番目に設立された高松工芸高校（金沢、高岡、有田との関係）
・宇高連絡船の就航による四国の玄関としての発展（明治 43 年）
・高松市主催による全国産業博覧会の開催（昭和 3 年）
・瀬戸内海国立公園の指定（日本初の国立公園の指定、昭和 9 年）

③1950 年～1980 年代の動向

・国の出先機関や大企業の支店の集積
・金子正則知事「デザイン知事」「デザイン室」
・香川県庁（丹下健三）、猪熊弦一郎、讃岐民具連
・イサム・ノグチと庵治石（イサム・ノグチ庭園美術館／NY と高松の関係）
・大平正芳元首相と田園都市構想（多様性のある地域主導の国家建設／文化の時代の到来）
・瀬戸大橋開通と宇高連絡船の廃止による港町らしさの消失

④現代の動向

・アート県。かがわ（うどん県アートコンペティション、瀬戸内国際芸術祭など）
・高松港湾地区の再開発（サンポート高松）

（４）高松市の現状

①上位計画・関連計画

・第 5 次高松市総合計画「文化の風かおり　光かがやく　瀬戸の都・高松」
・高松市農業振興計画／高松市観光振興計画／新高松市文化芸術振興ビジョン／高松市立美術館の今後の運営方針／高松市スポーツ振興計画

②高松市の資源・特徴

・豊かで住みやすい地域
・発達した支店経済は縮小傾向・強い本土志向
・豊富な資源と厚みのある文化土壌（讃岐松平家・讃岐三白、盆栽、漆塗（japan）、和三盆、瀬戸内・島・古民家）
・高いポテンシャルと新たな動き（盆栽の世界大会開催、墓石からの脱却を目指す庵治石、台湾との定期航空便の就航、芸術士の取組、四国域内観光の推進）
・全市的な取組や市民団体同士の連携不足

３．現況と課題の整理

（１）考え方

○暮らし続けるためには稼ぐ、儲けることが大切。経済的余力が文化芸術を支え、文化芸術が都市経済を支える好循環を生み出していく。
○一方で経済が縮小する社会の中で、収入以外の評価軸を持ち、共感によって人がつながる幸福論を追求していく。
○まちなかだけでなく、海園や田園も含めた多様性が高い高松市は、様々な人を受け入れる寛容性が高い。「ゆるい」ネットワークを形成しながら、経済循環と幸福論を目指していく。

（２）７つの創造都市政策指標から見る高松市の課題

政策指標	現状と問題点・課題
①創造的人材	瀬戸内国際芸術祭等を機に U･I･J ターンする芸術家は増加傾向にあるものの、本土志向により 20～40 代の若年層が少ない。
②生活の質	文化芸術に係る資源やイベントは多数あるが来場者数は少ない。貯蓄率は全国有数の高さだが、若年層は貯蓄率が高くない。
③創造産業	ものづくり産業は企業数･従業者数ともに減少傾向。最も多い卸売業と連携した創造的な新商品の企画開発が課題。創造的職種の従業者数は全国平均よりやや高め。
④創造支援インフラストラクチュア	創造活動を行う場や、創造的人材の交流の場が不足。一方でまちなかを中心に廃校などの空き施設・空き家が増加。
⑤文化遺産と文化資本	屋島や讃岐松平家の歴史文化を中心に文化財は多いものの、現代的なニーズに対応できる魅力に欠けており、観光客数は減少。
⑥市民の活動力	NPO や市民団体は非常に多く、活動は活発的。一方で団体同士の連携は少なく、活動内容が重複しているところも多い。
⑦創造的ガバナンス	創造都市の推進を目指し、平成 24 年度に創造都市推進局を設立し、予算の拡充などをめざすが、財政は厳しい。また創造的人材を活かすクリエイティブ・マネジメントが課題。

４．ビジョンと戦略

（１）高松がめざす将来像

魅力にあふれ、活力のある創造都市

自然や歴史、生活と結びついた「芸術指数」が高いまち

○盆栽や漆器などの伝統工芸や、庵治石や家具など自然を活かした工芸が生まれた高松では、讃岐民具連の活躍によって、職人の意識や地位が高まりました。
○また、高松産の食材を使った地元ならではの料理、フルートや声楽などの音楽など、様々な芸術を育む土壌があります。
○自然や歴史、生活と芸術が結びついてきた高松の特長を生かして、常に新しい何かが生まれる「芸術指数」が高いまちをめざします。

交流で新たな発見がある「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち

○瀬戸内海に開かれた高松は、島嶼と都市、本土と四国を結ぶ要所として栄え、数多くの来訪者を受け入れてきました。
○2010 年から始まった瀬戸内国際芸術祭は、国内外から多くの観光客が訪れ、数多くのアーティストと住民の交流が生まれました。また、これまで忘れられていた海や島の価値の再発見にもつながりました。
○住民と来訪者が一緒になり、地域資源の再発見と活用を通じて、その土地ならではの「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまちをめざします。

コンパクトな理想の暮らしが実現できるまち

○高松で暮らし続けるためには、経済の好循環を生み出すことが必要です。また、経済的余力は文化芸術を支え、創造都市の土壌を育みます。
○一方で人口減少社会、少子化・高齢化社会の到来により、経済がシュリンクする中で、収入に左右されない、共感のもとにつながる幸福論の追求が求められています。
○都市と海園・田園が広がり、また歴史文化土壌に恵まれた高松では、多様な暮らしが実現できます。各人がコンパクトな理想の暮らしが実現できるまちをめざします。

（２）ビジョン達成までのプロセス

高松の現況と課題

→

創造的ｱﾌﾟﾛｰﾁ

○場の創出
○創造的人材の集積
○編集・発信

×

主なﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ

○交流空間
○生活工芸
○食
○祝祭
○国際会議
○こども

→

ビジョン達成

○ｺﾝﾊﾟｸﾄな理想の暮らしが実現できるまち

○交流で新たな発見がある「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち

○自然や歴史、生活と結びついた「芸術指数」が高いまち

（３）ビジョンを達成するための３つの戦略

グローバルにひらく戦略

○都市経済の好循環を生み出すためには、今後も成長力が見込まれるアジア新興国を中心とした海外市場の獲得が重要です。
○工芸品や農林水産物の販路を国内外に積極的に開拓していくとともに、小規模イベントやコンベンション観光を国際級に育て上げ、外国人観光客の増加を実現します。
○海園及び田園の恵まれた自然や、市街地の現代的な都市空間をさらに磨き上げることで、市民が世界に対して誇りを持てる都市を育みます。

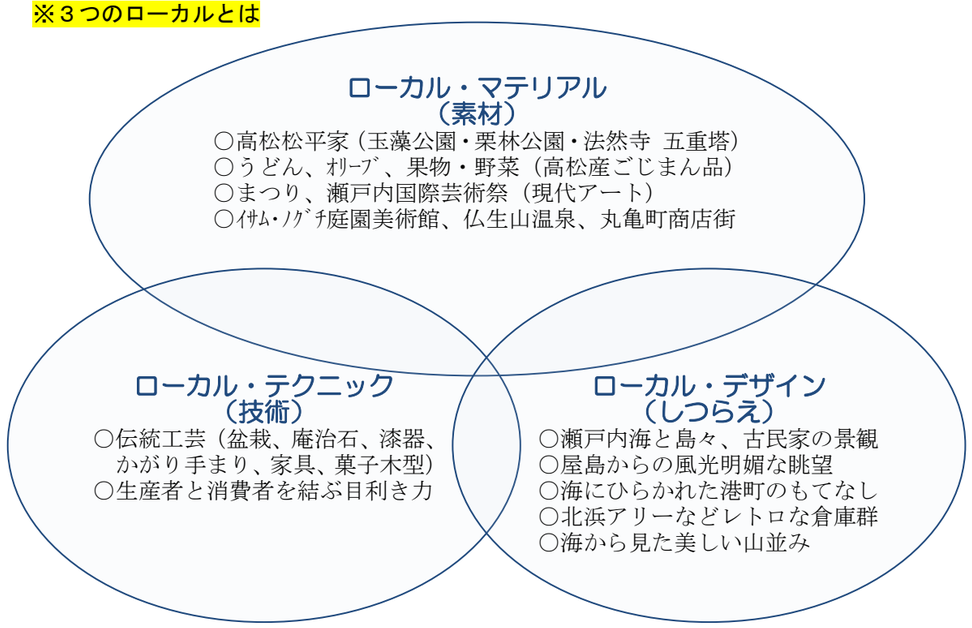
高松ならではのブランドを編集する戦略

○瀬戸大橋の開通以降、高松は物理的な拠点性を失いました。これを機会と捉え、高松ならではの高付加価値を編集することで、他都市との違いを生み出すことが必要です。
○高松の自然や歴史、生活に根付いた**３つのローカル※（マテリアル、テクニック、デザイン）**を再発見し、現代ニーズに合った活用方法を提案するとともに、高松らしさを付加した商品の創出と発信を行います。

ゆるやかに連携し、段階的に取組む戦略

○創造都市の実現のためには、従来の縦割りではなく、同業種／異業種がゆるやかな横連携でつながり、直面する課題に対して協働で取組むことが求められます。
○また、創造的な解決手法は一朝一夕に達成できるものではなく、トライ＆エラーを繰り返しながら、少しずつ前に進めていくことが大切です。
○創造力と実践力のある人材がゆるやかに連携し、段階的に取組むことで、創造都市を実現します。

※３つのローカルとは



５．創造的アプローチ

（１）場の創出

○人を引きつける歴史的建造物や古い町並み、自然豊かな海園・田園を生かした空間づくりとともに、創造的人材が集まり、情報の共有できる拠点づくりを行います。
○創造的人材と市民が連携することで、新しい動きが生まれる仕組みをつくります。

空間	○廃校等を活用した「高松クリエイティブカフェ（仮称）」の創設（情報／コミュニティ拠点） ○既存の創造的空間の活用検討（北浜アリー、高松市美術館など） ○歴史的建造物や古いビルのシェアオフィス／SOHO としての再活用 ○コンベンション施設の充実 ○自然と一体となった景観・町並みづくり
連携	○参加・交流型ワールドカフェの開催 ○国際的芸術家の招聘によるセミナー開催 ○異業種や大学との連携による新商品開発

（２）創造的人材の集積

○国内外の創造的人材の誘致を図るとともに、幼少期から高齢者に至るまで教育を通じて創造的人材の育成に努めます。
○高松に集い、暮らす創造的人材がこれからも高松で活躍するために、彼らの作品づくりや活動が仕事につなげ、クリエイティブ産業としての振興を図ります。

人材	○異業種連携による OJT の人材育成 ○高松の心地良い暮らしを伝える高松ライフスタイル本の発刊 ○創造的人材への逆指名によるトップセールス ○将来の創造的ガバナンスに寄与するクリエイティブ人材養成講座の開講 ○子どもたちの創造力育成／生涯教育の充実
産業	○創造的人材と市民が触れ合える機会の創出 ○シェアオフィス／ハウスや SOHO に対する家賃補助（古い倉庫群のリノベーションなど） ○起業を促進するインキュベーションの整備 ○創造的人材と企業のマッチング支援

（３）編集・発信

○高松ならではの資源を活用した戦略的な国際交流や情報発信を通じて、クリエイティブ高松の知名度向上に努めます。
○国内外の創造都市との連携により、互いの都市がともに成長してく相乗効果を生み出します。

編集	○地域資源を活用した新しい物語や映像の創作 ○インターネットでは入手できない「リアル」な高松のエピソードの収集・編集 ○ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請（高松で暮らし続けるための新カテゴリー提案） ○グローバルに PR できる異業種連携組織設立
発信	○競争力のある地域資源の情報発信 ○ワールド・フェスティバルを通じた発信 ○創造的人材の雇用に係る情報の発信 ○創造都市ネットワーク日本(CCNJ)への加盟 ○創造都市政策セミナーの誘致

６．主なプロジェクト

（１） 海園・田園とつながる人間都市プロジェクト

交流空間	**【目的】** 北に瀬戸内海、南に讃岐山脈と平野が広がり、気軽に登れる里山や周回できるため池が身近にある高松の魅力を再発見し、人と人との心の交流を創発するため、創造的な移動手段を活用した取組を進めます。	**【取組イメージ】** ○交流空間・公共空間の再編を通じた、都市の魅力を再発見する「ウォーキング、ジョギング、サイクリングなど回遊したくなる高松」の推進（玉藻城周辺　市民のプロムナード計画・公園化計画） ○高松駅からまちなかへつながる観光ルートの開発 ○海のある暮らしの推進（フェリー乗り場の跡地やヨットハーバー隣の砂浜の駐船場への整備など） ○親しみやすい水辺空間の整備（ウォーターフロントや河川など親水空間のあり方の検討） ○田園とまちなかをつなぐ「スマートサイクル」の推進（コミュニティサイクルポートの整備） ○公共交通システムの見直しによるコンパクト・エコシティの推進

（２） フード・イノベーション・プロジェクト

食	**【目的】** 農林水産物の地産地消を推進するとともに、新規就農者の増加による耕作放棄地の減少や買い物弱者に対する支援など、複合的な社会課題の解決をめざします。	**【取組イメージ】** ○デザインやマネジメントができる新規就農者の確保・育成 ○耕作放棄地の把握・管理・再生や新規就農者への引継ぎに取組む組織の設立（空き倉庫の活用など） ○稼ぎにも生きがいにもつながる農産物直売所の整備・管理運営（朝市の開催などを通じた直売体制の確立） ○直売所周辺に居住する「買い物弱者」に対する宅配・配食サービスの実施 ○市内外の都市住民との交流による「農のある暮らし」の普及促進（高松ならではの伝統的日本食を通じた食育手法の開発など）

（３）グローカルな生活工芸プロジェクト

生活工芸	**【目的】** 自然や歴史、生活と結びついてきた民藝・工芸を「生活工芸」として新たに価値を見出し、世界に向けて発信します。	**【取組イメージ】** ○高松の生活に根付いた民藝・工芸の発掘及び伝承 ○国内外販路開拓の推進（展示会出展、商談会の実施、出店支援） ○作り手の現場を体験できる“ほんもの”志向のツーリズムの推進 ○素材から製品までトータル・プロデュースできる人材の誘致・連携 ○異業種や大学との連携による新商品開発

（４）ワールド・フェスティバル・プロジェクト

祝祭	**【目的】** 市民芸術活動の種が芽吹きやすい寛容性のある文化土壌を活かし、イベントの国際化支援により、世界中からの観光客の集客に取り組みます。	**【取組イメージ】** ○個人や市民団体が取組む「こんまい」イベントの開催支援 ○市内イベントの国際化支援（瀬戸内国際芸術祭【アート】、瀬戸内生活工芸祭【工芸】、アジア太平洋盆栽水石大会【盆栽】、むれ源平石あかりロード【庵治石】、サンポート高松トライアスロン【スポーツ】、さぬき映画祭【映画】、高松国際ピアノコンクール【音楽】、瀬戸内サーカスファクトリー【演劇・舞踏】など） ○国際イベントへの来訪客が楽しめるクリエイティブツーリズムの推進（(仮称)ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ高松など）

（５）コンベンション誘致プロジェクト

国際会議	**【目的】** 良好な交通アクセスと豊かな自然・文化を生かし、コンベンション（国際会議）や視察旅行・展示会等の MICE 誘致に取組みます。	**【取組イメージ】** ○高松サンポートに集積するコンベンション関連施設の活用に向けた、国際的な会議・シンポジウムの誘致 ○飲食施設・宿泊施設と連携した、高松サンポートからの瀬戸内海の優雅な眺めを堪能できるサービスの実施 ○コンベンション参加者の帯同者（妻や子どもたち）も楽しめるオプションツアーの実施

（６）高松チルドレンズ・プロジェクト

こども	**【目的】** これからの高松を担うこどもの創造力を、環境問題などと組み合わせながら開発するとともに、子育て世帯の支援による労働力確保につなげます。	**【取組イメージ】** ○こどもの創造力を育てる取組の推進（芸術士の確保・育成、芸術士派遣先の拡充、工芸・音楽・スポーツ・演劇・映画など分野の拡充など） ○ゴミ処理場等との連携によるレミダ（素材のリサイクル＋アート）の実施 ○子育てをしている両親を支援する取組の拡充（育児支援サービスの推進） ○こどもの遊び環境の充実や子育て情報の収集の拠点施設の整備・管理運営（こども未来館の充実）